

経済の実態を正しく分析・予測する



ベトナム・ハノイでは今年3月、日本人専門家とSBV職員との間でインフレ目標政策について協議が行われた

ベトナムは1986年以降、市場開放を押し進めることで、高い経済成長を実現してきた。その一方で、過剰投資などによって急激なインフレがたびたび発生し、経済活動を阻害する要因の一つとなってきた。このため、同国政府は近年、経済の安定化を重視する方向へと政策を転換しており、その中で為替政策や金融政策の改革も進めている。検討中の「インフレ目標政策」も、そうした流れを受けたものだ。

インフレ目標政策とは、ある一定の物価上昇率を物価目標として定め、目標の達成に向けたさまざまな金融調節手段を実施していくもの。信頼性の高いインフレ目標を設定するためには、正確な経済分析・予測に基づいた政策判断が必要になる。だが、SBVではそうした高度な金融政策を運営するための能力や体制が十分に整っていない。

日本は、2012年から人材育成などを通じたSBVの政策・業務運営能力の強化を支援してきた。これまで、幹部職員を対象とした研修の実施や、体制の見直しに関する提言を行っている。

さらには、金融政策の立案に欠かせない、経済分析・予測能力の向上を目指した取り組みにも力を入れてきた。具体的には、日本人専門家が技術指導を行いながら、マクロ経済分析のツールとして近年利用が進んでいる「動学的確率的一般均衡(DSGE)モデル」を導入し、物価や景気の動向を予測したり、最適な金融政策をシミュレーションしたりできる能力の向上を図った。

今年3月からは、こうした経済分析・予測能力の向上により焦点を当てた「金融政策・経済分析予測能力向上プロジェクト」が始まっている。同プロジェクトでは、これまでの取り組みに加え、SBVの政策運営意図を市場参加者や市民に分かりやすく伝えるためのコミュニケーション能力の強化などについても支援する予定だ。

さらに、日本銀行が金融政策を運営するため企業を対象に実施している統計調査「全国企業短期経済観測調査」(短観)を参考に、企業のビジネス・マインドやインフレ期待に関する調査能力の向上にも取り組んでいく。

ベトナムの中央銀行として、紙幣の発行やマクロ経済政策の運営を担うベトナム国家銀行(SBV)。グローバル化が進み、同国の経済環境が激変する中、SBVは近年、日本の技術や経験を学びながら、より高度な金融政策を運営するための能力強化に取り組んでいる。

変わるベトナム国家銀行

“色”から作るドン紙幣



インキの調色実験。日本人短期専門家(白衣の男性)の指導の下、工場職員たちは調合したインキの色相を熱心に確認している



最高額券の50万ベトナム・ドン紙幣(2,500円相当)。ドン紙幣は11種類あり、1万ドン以上の6種類はプラスチック製で透明部分がある

ベトナム通貨「ベトナム・ドン」を製造する、SBVの紙幣印刷工場。ここで昨年8月、日本人専門家と現地の工場職員が、刷り上がったばかりの色鮮やかなドン紙幣を真剣な眼差しで見つめていた。工場職員が、自らの手で原料を混ぜ合わせたインキを使って実験印刷した、初めての紙幣だ。

紙幣の印刷には、通常、偽造防止のため特殊で高度な技術を用いたインキ、用紙、印刷方法が用いられる。特にインキは、ATMなどの機械処理においても重要な役割を果たす。

この工場ではこれまで、紙幣印刷用インキの調達を外部に依存していたが、コスト削減や技術開発力の強化を図るため、インキも自分たちで開発・製造したいと考えた。そこで日本は2014年、工場内でのインキ製造に向けたマスタープランの作成と、工場職員への技術指導を行う「通貨発券機能強化プロジェクト」を開始した。指導にあたるのは、日本の円紙幣を製造している独立行政法人国立印刷局から派遣されている専門家だ。

同局は、インキ製造だけでなく、原図・原版作製や用紙製造、印刷・仕上げまでを一貫して行っている。プロジェクトのチーフアドバイザーを務める岩崎浩さんは、自らの豊富な経験から、紙幣印刷用インキに求められる性質として「特殊な材料を配合した上で、印刷機上では乾きにくい、印刷後は速やかに乾燥し、積み重ねても汚れが発生しない。また、光や熱、洗剤や薬品、汗や摩擦などへの耐久性があり、長期間劣化しない」ことなどを挙げた。

SBVも、将来的にはこれらさまざまな要件を満たすインキを自ら研究・開発・製造しようとしている。高い志を胸に日々指導を受ける工場職員を見つめながら、岩崎さんは、「私も彼らの熱意に負けじと取り組んでいます」と語る。

プロジェクトは今年11月に終了する予定だ。マスタープラン案はすでに作成済み。今後は、専門家による技術指導や紙幣の印刷実験を継続して行い、工場職員の技術のさらなる向上を目指す。